

翔

百万石蝶談会

No. 150

June

2001

松井正人：筑前山周辺でウラクロシジミを採卵

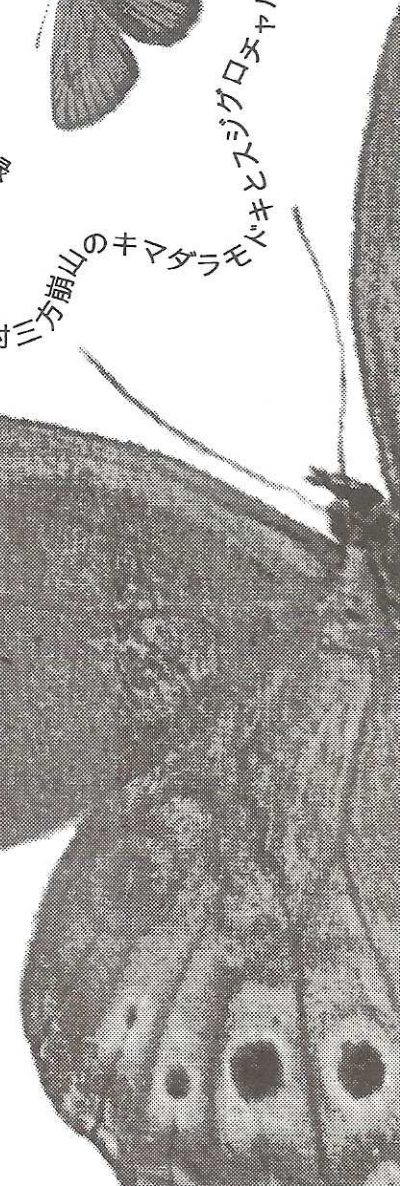
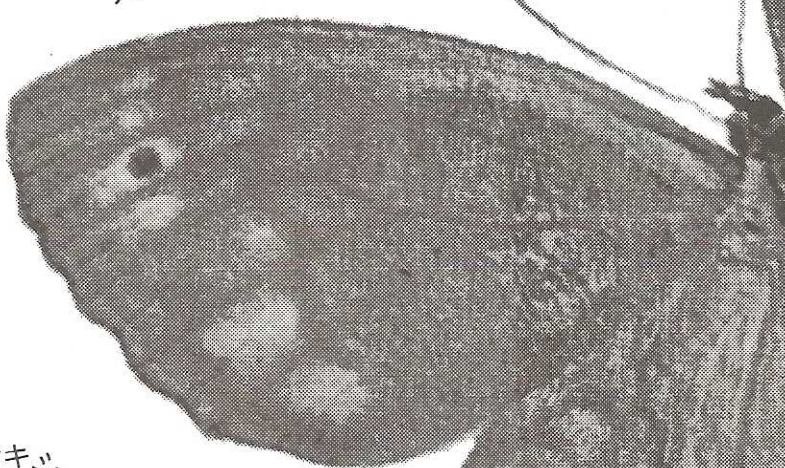
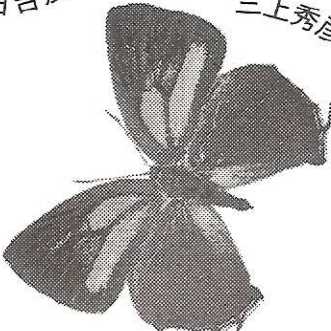
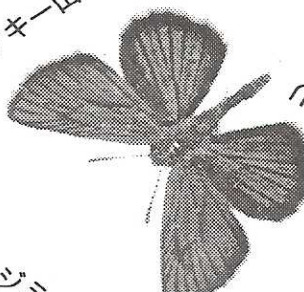
日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子：2000年に輪島市およびその周辺で採集したゼフィルス

久慈一英：ロッキー山脈採集旅行2000 Part 1

三上秀彦：富山県福光町におけるヒサマツミドリシジミの記録

大脇 淳：岐阜県白川村三方朝山のキマダラモドキ

松井正人：石川県産ムササキシジミの飼育記録



2000年に輪島市およびその周辺で採集したゼフィルス

日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子

石川県輪島市およびその周辺では1999年までに6種類のゼフィルスが確認されていたが、その個体数は少なく、筆者らは1997-99年の3年間に採集したものの合計は23頭にすぎなかった。その内訳はウラキンシジミ 1♂、ミドリシジミ 1♀、オオミドリシジミ 5♂2♀、エゾミドリシジミ 3♂11♀である。然るに2000年は輪島市宝立山 (5637-11-03)、輪島市深見 (5636-07-59)、鳳至郡柳田村北河内 (5636-07-59)、輪島市および柳田村鉢伏山 (5626-07-37) を中心にオオミドリシジミ50♂4♀、エゾミドリシジミ29♂13♀、ジョウザンミドリシジミ10♂の合計106頭を採集することができた。

◆ジョウザンミドリシジミ

ジョウザンミドリシジミは輪島市での初記録であり、これによりゼフィルスの合計は7種類となる。なお、同定にあたっては嵯峨井淳郎氏をわずらわせた。紙面を借りてお礼申し上げる。

2000年7月2日 輪島市宝立山 2♂ 日吉宏朗 2000年7月9日 輪島市宝立山 2♂ 日吉南賀子
2000年7月2日 輪島市宝立山 3♂ 日吉芳朗 2000年7月9日 輪島市宝立山 1♂ 日吉宏朗
2000年7月9日 輪島市宝立山 2♂ 日吉芳朗

◆オオミドリシジミ

輪島市佐比野山 (5636-06-26) で採集したオオミドリシジミは、鳳至郡門前町に隣接する地点としては最初の記録である。また、高洲山 (5636-07-56) でもオオミドリシジミを採集したが、浅見行一・的場和雄 (1952) に記されているものの、筆者らにとって初めての記録である。

2000年7月8日 輪島市佐比野山 1♂ 日吉宏朗 2000年7月10日 輪島市高洲山 1♂ 日吉宏朗

◆エゾミドリシジミ

7月5日、日吉南賀子採集のエゾミドリシジミ 1♀がA型であった。これまでに採集した♀は、以前の記録を含めてすべてO型である (一部OA型も含まれる)。

2000年7月5日 輪島市宝立山 1♀ 日吉南賀子

なお、これまでに採集記録のあるウラキンシジミ、アカシジミ、ミドリシジミ、ミズイロオナガシジミを2000年には目撃さえできなかった。

《参考文献》

浅見行一・的場和雄 (1952) 石川県旧鳳至郡の蝶類について : 6-7, 13. 輪島高等学校.

《ひよし あつろう・よしろう・ながこ 〒928-0001 輪島市河井町 1部64-1》

石川県産ムラサキシジミの飼育記録

松 井 正 人

石川県内で、ムラサキシジミは越冬しているのかいないのかはまだ知られていないが、2000年は県内各地で観察されている（大脇、2000）。筆者も、白峰村白峰スキー場でコナラの新芽上を飛ぶ1♀を得ることができ、幸いにも採卵に成功したので、飼育経過を報告する。なお、採集時に飛んでいた周辺のコナラを期間をおいて2度調査したが、卵や幼虫は発見できなかった。

2000年7月21日 石川県石川郡白峰村白峰スキー場 1♀ 松井正人

■採 卵

7月21日の採集日から、密閉式容器でアラカシの新葉を使って採卵を試みたが、2日経っても産卵しなかった。23日に解放式容器に移したところ、葉表に4卵、葉裏に2卵の計6卵を産み、24日には吸蜜用にと一緒に入れてあったティッシュペーパーに12卵を産み、25日には母蝶が死亡した。

■成長記録

7月26・27日に、12卵が孵化し、6卵は孵化しなかった。孵化した幼虫の食い付きは悪く、7月31日には4幼しか生き残らなかった。飼育容器は、植樹の持ちを考えて密閉式で行い、2幼ずつふたつの容器で飼育した。順調に成長していたが、8月10日になって4幼とも体中に黒い斑点があらわれ、幼虫同士が噛み合いしたと思われるので、この日から1幼ずつで飼育した。8月12日と15日に蛹化し、12日に蛹化した3頭からは1♂1♀が羽化し、1蛹は羽化しなかった。15日に蛹化した1頭は、8月25日に1♂が羽化した。

		飼育経過							
		7.23-24	7.26-27	7.31	8.12	8.15	8.22	8.23	8.25
アラカシ	6卵	5卵孵化	2幼	3頭蛹化	1頭蛹化	1♂羽化	1♀羽化	1♂羽化	
ティッシュ	12卵	7卵孵化	2幼						

今回の飼育で感じたのは、孵化率の悪さ（67%）と幼虫の食い付きの悪さ（33%）であった。このことについて中 秀司氏にお聞きしたところ、孵化率の悪さは産卵末期であれば仕方のないことで、食い付きの悪さは与えた葉に問題があるのではと教えていただいた。ムラサキシジミが好むのは、ほとんど閉じているような、展開し始めたばかりの葉で、ある程度開いてしまった新芽には食い付けられない可能性が高いということであった。

《 参考文献 》

大脇 淳（2000）ムラサキシジミの採集・目撃例．翔(147):2.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

富山県福光町におけるヒサマツミドリシジミの記録

三上秀彦

筆者は、これまで確認例のなかった富山県福光町で、ウラジロガシから以下のようにヒサマツミドリシジミ *Chrysozephyrus hisamatsusanus* を採卵したので、記録にとどめておく。

2000年11月27日 富山県西礪波郡福光町小院瀬見（標高280m） 25卵 三上秀彦

記録地は、富山県西部を流れる小矢部川西岸で、石川県境まで地図上の直線距離で1.2 kmである。小矢部川水系では、これまで右岸にあたる東礪波郡井波町における1例の記録（井村正行ほか、1990）があるが、恒常的な産地は確認されておらず、富山県を中心とする連続分布の西限は、庄川水系と判断するのが一般的であった。

25卵中18卵は側芽に産付されており、そのような習性をもつ同一母蝶による産卵の可能性が高い。また、採卵した木は好条件に恵まれていたと考えられるが、そのわりに得られた数が少なく、記録したこの地で毎年発生しているかは疑問が残る。今後の継続的な調査が望まれる。

《 参考文献 》

井村正行ほか(1990)富山県に於けるヒサマツミドリシジミの分布調査(その3). 翔(84):3-4.

《みかみ ひでひこ 〒920-0266 石川県河北郡内灘町大根布6-47-1》

宝達山周辺でウラクロシジミを採卵

松井正人

能登地方の宝達山周辺で、マルバマンサクからウラクロシジミを採卵したので報告する。石川県のウラクロシジミは、これまで能登地方からは全く知られていなかったが、2000年になって宝達山から記録され（三上、2000）、能登地方にも分布することが明らかになっている。

2000年11月26日 石川県羽咋郡押水町宝達山 5卵 松井正人

2000年12月17日 石川県羽咋郡志雄町原 14卵 松井正人

押水町宝達山の記録は、標高600m付近のブナ林周辺、志雄町原の記録は、子浦（しお）川の標高180m付近で採卵した。180mの様な低標高の記録から、能登半島における本種の分布は広いように思われる。

《 参考文献 》

三上秀彦（2000）押水町宝達山で採集したミドリシジミ類. 翔(145)：1.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

岐阜県白川村三方崩山のキマダラモドキとスジグロチャバネセセリ

大 脇 淳

岐阜県白川村三方崩山で、キマダラモドキとスジグロチャバネセセリを採集したので報告する。

■キマダラモドキ

2000年8月5日 岐阜県大野郡白川村三方崩山(alt.1200m) 1♂ 大脇 淳

■スジグロチャバネセセリ

2000年8月5日 岐阜県大野郡白川村三方崩山(alt.1300m) 1♂ 大脇 淳

キマダラモドキは、急な上り坂を抜け、道が少しなだらかになったブナ林でヒメキマダラヒカゲと絡み合っているところを採集した。時間は午前10時～11時頃で、林内に多少日光が差し込んでくる場所であった。羽は傷んでいた。スジグロチャバネセセリは、キマダラモドキを採集した場所から、もう少し登った標高1300m付近の多少日光が差し込むブナ林で採集した。

三方崩山は、白山主峰の8km東方に位置し白山山塊の一部を形成している。白山山塊は石川県、富山県、福井県、岐阜県からなっているが、白山山塊におけるキマダラモドキの記録は同地（岐阜県昆虫同好会、1987）、スジグロチャバネセセリのそれは白川村平瀬（岐阜県昆虫同好会、1990）からしか知られていず、稀な種のようなのである。

今回の報告に際し、過去の記録を調べていただいた松井正人氏、並びに岐阜県昆虫同好会の林 俊男氏に深謝したい。

《 参考文献 》

石川県(1998)石川県の昆虫. 537pp.

富山市科学文化センター(1998)収蔵資料目録第11号 富山県の蝶(I). 113pp.

福井県(1998)福井県昆虫目録(第2版). 556pp.

岐阜県(1982)岐阜県の昆虫. 566pp.

岐阜県昆虫同好会(1987)岐阜県内蝶類採集調査記録集(1). 82pp.

岐阜県昆虫同好会(1990)岐阜県内蝶類採集調査記録集(2). 78pp.

岐阜県昆虫同好会(1995)岐阜県内蝶類採集調査記録集(3). 120pp.

岐阜県昆虫同好会(2001)岐阜県内蝶類採集調査記録集(4). 78pp.

《おおわき あつし 〒920-0921 金沢市材木町15-67 コーポ兼六101号》



ロッキー山脈採集旅行2000 Part 1

久 慈 一 英

まだ学生だった頃、蝶談会の会合に初めて行って、野中 勝氏のアメリカでの採集標本を見た。記憶は曖昧だが、その中でも赤い斑紋の入った北米のウスバシロチョウは、印象が強かった。でも、まさか自分で採ることが出来ようとは思っていなかった。今回の採集行は、夢が現実となったお話である。

米国での滞在中に、どうしても行きたかったのはロッキー山脈である。私の住むニューヨークは、米国の東海岸にあり、単調な地形のためか周辺で採れる蝶はそれほど多くはない。これに対して、ロッキー山脈は、広さ、高さともに壮大なスケールを持ち、蝶の種類も東海岸に比べると多様だ。北アメリカ大陸は広大なため、蝶相は連続的に大きく変化して、東海岸と西海岸では共通の蝶の方が少ない。そして、同じ種類とされているものでも、地域変化でかなり異なるものがほとんどである。広いアメリカ大陸の蝶を眺めていると、東海岸と西海岸では、亜種も近縁の別種とされるものも人為的な境界であり、蝶そのものの辿ってきた道のりはそれほど違わないことを感じる。物理的、時間的な距離が遠くなればなるほど、性質が離れていくということのようである。その中であって、ロッキー山脈は非常に大きな物理的障壁である。高標高地には氷河期の蝶がおり、山麓には多様な蝶が分化している。

旅行に際して、どういう場所と日程にするかで悩んだが、結局、野中氏と同じくコロラド州、ワイオミング州とすることにした。そして、野中氏からは具体的な情報もいただいたので、これが大きく成果に表れた。また、ワイオミングの情報をニューヨーク在住の久枝譲治氏からいただいた。e-mailという文明の利器を活用すれば、もはや情報収集に国境はない。手軽で早い。

■7月13日（1日目）

我が家は、家族5人で子供が小さく、本当は車で行きたいところだったが、日程と距離の都合で、ニューヨークからコロラド州デンバー-Denverまでは飛行機での移動となった。米国国内での飛行機料金には、日本と違ってほとんど定価というものがない。出来るだけ早いうちに、予約してしまった方が随分安い。直前には数倍の値段となったりするので要注意である。空港で、予約しておいたレンタカーを借りて、デンバーのホテルへと向かう。家族が多いのと、道の様子が予測できないので、4輪駆動のミニバンとした。ニューヨークで乗っている車は、91年式のドッジ グランドキャラバンDodge Grandcaravanというやつだが、レンタカーは同じ車種の99年モデルである。同じ車種なのに、これは全く違う車である。古いものは、アメリカ車というのが実感できる、全てが粗野な感じの造りの車だが、新型は日本車と異なるところが無く完成されている。今回は、全ての宿泊を予約して

おいだが、距離感があまりなかったため、大きな町に宿を取りすぎた感じが否めない。買い物には便利だが、採集地までの時間が多めにかかった。デンバーに到着すると時差の関係で、まだ時間があり、さっそく下見をかねて、エバンス山の麓までドライブしてみた。雲が多く、今にも夕立が来そうであったが、陽の良く射す場所に車を止めて散策してみた。あたりは、半砂漠の様相で、サボテンが生えている。そういえば、野生のサボテンは初めてみたのかもしれない。結構いろいろな花が咲いているのに、蝶が全く見られない。そして、とにかく暑い。でも、確かに標高は2500m近くはあるはずだ。何かがおかしい。急な斜面を1時間ほどかけてかなり登って降りてきたのに、結局見て採った蝶は、3頭のみ。アラクネヒョウモンモドキ *Poladryas minuta arachne*、アレキサンドラモンキチョウ *Colias alexandra alexandra*、フタオトラフアゲハ *Papilio multicaudata*。もちろん、初めて採った種類ばかりであったが、あまり芳しくないスタートであった。

■7月14日（2日目）

デンバーには4泊する予定であったが、天気が良かったので、さっそく主目的地エバンス山Mt. Evan 14, 260ft (=4, 260m)へ行くことにした。麓から川沿いを走るが、さっそく蝶が飛んでいる。たまたまに、広い道ばたの空き地に車をとめて、採集にかかる。いきなり、ロッキーイチモンジ *Limenitis weidemeyeri* が目に入り、つかまえる。午前9時から10時くらいになると、川沿いの地面に止まるようだ。この辺は日本のオオイチモンジと似たような性質だ。道路沿いの花には裏面がチョコレート色のヘスペリスウラギンヒョウモン *Speyeria hesperis* が来ている。ボロのヒョウモンかと思って捕まえたら、なんとクリクサスタカネヒカゲ *Oeneis chryxus chryxus* であった。デンバーですらすでに標高1800mぐらいある。麓でも2500m近いからこんな蝶がいるのもあたりまえなのである。時間が惜しいので、手早く終わりにして、登りを続ける。しかし、料金所の手前の駐車場で白い大きな蝶が見えて、我慢しきれず停車する。子供にも網を持たせて採集開始。白い蝶は、なかなか寄ってこないの走って捕まえた。念願のロッキーウスバシロチョウ *Parnassius smintheus* の♂であった。ここでは、何頭か採ったパルは全て♂で傷んでいるものが多かった。ここでは蝶が多く、他に、グラシリスシータテハ *Polygonia gracilis zephyrus*、グランドンシジミ *Agriades glandon rustica*、メアディモンキチョウ *Colias meadii meadii*、そしてなぜか南方系の大きなイヌモンキチョウ *Zerene eurydice* や、とても小さなイオレキチョウ *Nathalis iole* が採れた。

お昼近くになってしまったが、ゲートで\$10の利用料を払ってさらに登る。森林限界を越えると、道路近くに沢山のパルが見える。駐車場所を見つけて草原に踏み込む。岩が多くコケが生えている。高山植物がきれいな花を咲かせている（図1）。さっそく、小さな黒っぽい蝶がいたので、採ってみると、エディタヒョウモンモドキ *Euphydryas editha beani* であった。しかし、既にかかなり傷んでいる。図鑑によると非常に地域変化が多いということ

である。ここら辺では全体に赤っぽくて、高山のものは小さくて黒っぽいのが特徴らしい。小さなオレンジの蝶は、小型のキャリクレアヒョウモン *Boloria chariclea chariclea* であったが、これも傷んでいるものが多い。パルは、沢山見えるが、なぜかこちらの方には寄ってこない。採るためには、どうしても少し走らなければいけ



図1：エバンス山の風景。瓦礫が広がり、高山植物がまわりに咲き乱れる高山蝶の楽園である。しかし、蝶を追って走ると高山病でひどいことになる。

い。でも、少し走ることが妙に辛い。おかしい。最初のうちは、採ったのは全て♂。ゲート付近で採ったものよりは、鮮度がよい。♀が採りにくいことは、野中氏の採集記で知っていたので、まわりをよく観察してみる。少し遠くに、何となく黒いパルが止まった。近寄って、地面に止まっていたものを捕まえてみると、待望の♀であった（図2）。♀は、あまり飛ばず、すぐに草や地面に止まってしまう。もともと、♂に比べて数が少なく黒っぽくて目立たないので、注意して探さないと♂ばかりということになってしまう。♀は、♂よりも赤紋が大きく、黒と赤のコントラストがあって美しい。ここでは、オレンジのメアディモンキチョウ *Colias meadii meadii*（図3）が割と多く、いくつか採れた。普通種のアメリカオオモンキチョウ *Colias eurytheme* よりも深いオレンジ色の美しい蝶である。高山にのみ遺残する正真正銘の高山蝶である。突然茶色っぽい蝶が、視界に入ったので、捕

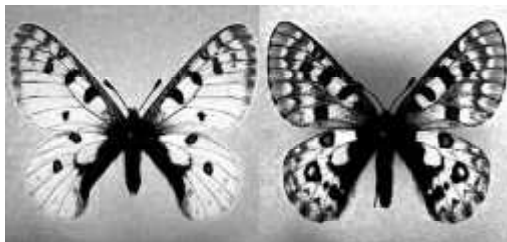


図2：ロッキーアポロウスバシロチョウ *Parnassius smintheus*（左♂、右♀）、エバンス山で採集。他の山地のものよりも小型で雌の地色がやや黄色っぽい。



図3：メアディモンキチョウ *Colotis meadii meadii*（左♂、右♀）。写真はワイオミング州スノーレンジ産。ロッキー山脈の高山帯に遺残的に分布している。地色は深いオレンジ色。日本のモンキチョウよりも一回り小さい。

らえてみると、メリッサタカネヒカゲ *Oeneis melissa melissa* であった。日本のダイセツタカネヒカゲと同じ種類である。こんな緯度の低いところにまでいるとは、不思議な感じがする。でも、標高が高いので大雪山と同じ厳しい気候帯なのであろう。ちなみに、米国東海岸では、ニューハンプシャー州北部のホワイトマウンテンに孤立して生息しており、White mountain butterfly とよばれている。3時頃になると陽が陰る時間が多くなり、夕立が来そうになってしまった。日が射さないと、急に寒くなり、当然蝶はみんな飛ばなくなってしまう。大体採れた感じがしたので、小走りに車に帰る。ところが、非常に気分が悪い。激しい頭痛と嘔

気がし、動悸までする。とても運転できる状態ではない。明らかに高山病である。医学的に説明すれば、薄い酸素下で動いたため過呼吸状態となり、呼吸性アルカローシス、つまり血液がアルカリ性となってしまって、様々な症状が出てくるのである。恐らく、天候が悪化して急に気圧が下がったため症状が顕在化したのであろう。妻や子供も散歩したらしく、調子が悪い。やはり突然高山で活動するのは無理があった。しばらく動かずに休んでいると、少し良くなったので、頂上近くまで車で行けるところまで行くことにした。最高地点の駐車場は、すでにとても寒くて蝶どころでもなく、とても外に出る気がしなかった。おまけに再び気圧が下がったためか、また症状が悪化してきた。写真を数枚撮った後、直ちに山を下り始めた。だが、気分が悪すぎて、途中で車を止めて、しばらく休まなければならなかった。なんとか我慢できるほどに回復してから、さらに下ってデンバー近くまで来ると、不思議と症状は無くなって、高山病であることを実感する。簡単に車で行けるとはいえ、気候は高山であることに変わりはない。天気の急変を含めて、高度馴化をすることなど高山病への注意が必要である。

後日、展翅してはじめて気付いたのだが、ロッキーウスバシロチョウの♀と思っていた中に地色の黒化した♂の異常な個体が含まれていた。日本のウスバシロチョウのように黒化する地域があるのだろうか。なお、この個体は、小型で *ssp. hermodur* とされるものである。雌は全体に黒化が強い。

■7月15日（3日目）

子供達が、昨日高山病を経験したために、山へは行きたくないという。子供達は、妻とデンバー動物園に行くことになり。私は、ギルピン地区 Gilpin county のエイペックス Apex 10,500ft (=3,150m) というところに行くことにした。デンバーからしばらくは、乾燥した半砂漠で、標高が高くなると針葉樹林帯となる。アレクサンドラモンキチョウが道沿いに飛び、水のしみ出ている道ばたには、表面の緑がかった深い輝きの美しいセピオルスシジミ *Plebejus saepiolus whitmer* などが集まっている。砂利道をさらに登ると牧場が美しいお花畑となっており、峠に車を止めて、採集を開始する。ロッキーウスバは、さっそく沢山飛んでいるのが見える。でも、お花畑が斜面となっているので結構採り辛い。峠の岩場にクリクサスタカネヒカゲが結構いたが、傷んでいるものが多い。天気が良かったためか、このタカネヒカゲはお花畑にも飛んでいた。このお花畑には、この他にモルモンウラギンヒョウモン *Speyeria mormonia eurynome*、スカッターモンキチョウ *Colias scudderi*、グランドンシジミ、セピオルスシジミ、チューリアヒメヒカゲ *Coenonympha tullia ochracea*、エビプソデアベニヒカゲ *Erebia epipsodea* がいた。ヒョウモン類は、同定が非常に難しいので、何でも採っておいた方が良いことが後からわかった。道路脇には、前述のタカネヒカゲの他にグラシリスシートテハやヤンキーコヒオドシ *Nymphalis milberti milberti* がいた。黄色いモンキチョウも同定がやっかいなので、とにかく採っておくべきである。慣

れると生息環境や習性の違いから、種類の予想がつくようになる。まだ7月中旬なのにこのエピプソデアベニヒカゲは何故か傷んでいるものが多かった。チューリアヒメヒカゲは、地理的変化が大きいことが知られているが、ここのものは、東部亜種*ssp. tullia*と亜種が異なり、小さくて地色が明るい黄土色で違う。ロッキーウスバは、新鮮なものが多く、♀は多くなかった。♀は、止まっていることが多いと書いたが、大抵数頭の♂が♀の周辺を飛んでいることが多い。だから、♀を探すには、♂の集まっている場所に行けばよい。この方法はなかなか有効である。ここの個体は、エバンス山の個体よりもかなり大きく、♀の地色がかなり白い。

午後になるとまた天候が崩れてきて、何となく体調が良くない。蝶も十分に採ったので、下り始める。まだ時間が早かったので、コロラドスプリングスColorado springsのコロラドルリアカシジミ*Hypaurotis crysalus crysalus*の下見に行くことにする。この蝶は、2種しかいない北米のゼフィルスのうちの1種であるが、日本のゼフとはかなり異なっていて表は青紫で橙色のアクセントが入った美しい蝶で、コロラド州の蝶とされている。私は、昔よく見ていたブルーバックスの「世界の蝶」の中の写真が印象深くて忘れられない。野中氏から詳しい情報をいただいていたので、どうしてもものにしたい蝶であった。ガンベルオーク (Gambel oak) というカシワのようなカシの木に依存するゼフである。デンバーの近くにはこの木が見られないが、コロラドスプリングスに近づくにつれて、次第に多くなって来る。天候も悪化しつつあったので、木のありそうなモニュメントMonumentという町で高速を降りて、木を探す。町はずれに近づく、それらしい木は沢山ある。住宅地で、たまたま新しい家を建てるためこの木の林を伐採している空き地を見つけて侵入してみた。今にも、雨が降ってきそうな雷鳴のとどろく中で、このときのためにわざわざ持ってきた8mグラスファイバー長竿をつかって木を叩き始めた。このあたりは樹高が10m近くもあり、長竿を持ってきて良かったと勝手に納得する。叩き始めて程なくして、黒い大きなシジミチョウが飛び出した。日本のゼフよりかなり大きくて、樹上の蝶は本当に真っ黒に見える。確信を持ってネットする。ネットでうごめくものは、本当に大きい。日本のダイセンシジミを2倍くらい大きくした感じである。

でも、裏面の模様は見慣れたゼフ特有のパターンだ (図4)。表も見てみると、独特の光沢のある青紫の部分とオレンジの斑紋が美しく感動する。天候はさらに悪化して4時くらいになっていたが、どうやら活動時間に入ったらしく、木の梢や低い木にまで頻りに飛んでくるようになる。こうなると長竿はかえって邪魔である。十数頭とったあたりで、とうとう激しい



図4 :コロラドルリアカシジミ :*Hypaurotis crysalus crysalus* (左♂表、右同裏)。モニュメント産。日本のゼフィルスよりも一回り大きい。表面の地色は青紫色でダイセンシジミの趣。しかし、裏面は地色も灰白色で典型的なゼフィルスの模様。

雨が降り始めた。採れた蝶はほとんど尾状突起も残っており、きれいなものが多かった。多分、一斉に発生するのだと思われ、きれいな個体を採るには数日しか時期が無いのではなかろうか。図鑑にも発生期は1週間と書かれている。

■7月16日（4日目）



図5：コロラドルリアカシジミの採集風景。背後に立つ木が食樹のガンベルカシ。午前中の不活発な時間には、木を叩くと下草に降りてくる。子供でも採集できる。

デンバー周辺での主要目的は、大体達成したので余裕がある。本日は、小雨が降り天候が悪いので、コロラドスプリングスの神の庭 Garden of Godを観光に行くことにする。ここの岩の造形は確かに変わっていて神の存在を思わせるものがある。この周辺も例のカシの木が多く、近くのピクニック

エリアに駐車して、採集をすることにする。子供にも網を持たせて、さっそく木を叩き始める（図5）。すぐに、大きなシジミは現れた。叩くと、低いところに降りてきたりするので、子供でも採れる。いくらでも採りたくなる蝶である。この蝶に混じって、ボロボロのカラスシジミの一種がとれた。ここでも、20頭ほど採ったあたりで激しい雷雨が始まった。やはり、ゼフと雨は縁が深いのだろうか。なお、神の庭自体では、National Monumentと称して採集できないので注意。恐らく、ガンベルオークがまとまって生えていれば、まず生息しているのではないかと思われるが、発生時期が難しそうだ。

悪天候の中、ロイヤルゴルジRoyal Georgeという深い渓谷を見学した。確かに、渓谷は素晴らしいが、ちょっと観光地として俗物化しすぎている感が否めなかった。天気が良ければ、乾燥した高山の渓谷のタカネキアゲハ*Papilio indra*なんかがいそうな感じであった。

P. S. 小生、最近ホームページを始めて、今回のロッキー採集旅行の蝶の標本画像も少し載せましたので、興味のある方はご覧下さい。<http://www1.sphere.ne.jp/colotis/>

《参考文献》

野中 勝 (1987) ロッキー 1. 翔(67):8-10.

Jeffrey Glassberg (1999) Butterflies through binoculars The East.

James A. Scott (1986) The Butterflies of North America.

《くじ いちえい 10 River Road, #4P, New York, NY 10044, USA

留守宅：〒920-1161 石川県金沢市鈴見台3-1-3》

をときめく産地を飛びまわったようで、行く先々にその姿があった。

新種発見のチャンスはある

この程、新種アルビベニスを発見した蛾歴三十年の富沢氏、これまでに発見した新種は何と九種。蛾は蝶と違って新種発見のチャンスはまだまだあるようだ。

輪島市で春の幼虫採集

松井氏と日吉氏親子は、輪島市を巡ってゼフやその他の幼虫を探し回った。目玉はウラキンとスジボソヤマキだったがどちらも外れ、代わりにオオヒカゲとオオミドリが見付かった。

ツマグロヒョウモン飛び出す

三日間に及ぶ交通麻痺を引き起こした寒波や、海岸林のクロマツがボキボキ折れた春先の大雪に、ツマグロの冬越しが危ぶまれたが、今年も越冬に成功したようで、五月六日に初観察した。

加賀市のウラナミアカジミ

昨年、瀬越や畑町でウラナミアカが確認され、今年は小塩辻や芝山でも確認されている。こんな所にとまったような、斜面に樹が数本残された場所からも見付かっている。一帯に広く分布しているようで、小松空港周辺でも見付かるかも知れない。

いしかわレッドCDROM

昨年発行された、いしかわレッドデータブックのCD版がでた。ブックの方は文字だけだったが、CDは映像を掲載し、種の判別を助け、分布もわかるようになっていいる。しかし、いかなる理由によるものなのか、意図的に画質を落としたりとかで、ピンぼけのような写真が並んでいる。

舳倉島アサギプロジェクト

日吉氏の発案で、島民や来島者を巻き込んだプロジェクトが、夢とロマンをのせて動き出した。内容や渡島について

ては一四九号に詳しいが、チャシやポスターの連絡先を次の様にしたので協力願いたい。

◆百万石蝶談会、日吉、松井

◆アサギネット、藤井恒

◆日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト、金沢至

兼六園でハルゼミが鳴いている

金沢に広く分布しているハルゼミは、かつて兼六園から天徳院と小立野台地でも鳴いていたらしい。最近では街中ではその声は聞けないと思っていたが、兼六園では今なお声が聞こえてくるらしい。名勝兼六園、ハルゼミも絶やすことなく後世に伝えてほしい。

例会の記録

四月五日(木)城南管工一階にて八時から開催。

ギフチョウが大発生、福井、石川、富山のギフの発生状況、今年のギフ行脚、ギフの楽しみ方等々、ギフチョウ一色でした。

その他の話題では、昔の会誌からはエネルギーを感じ

る、パソコン二台をラン配線、南陽堂で仕入れた話、石川レッド種CD版は遅れている、帰国は六月などなど。

参加は、富沢、竹谷、大脇、松井、中西、細沼、山岸、井村、指田の九人。

例会の記録

五月十日(木)城南管工一階にて八時から開催。

白山のキマダラモドキを大脇君が紹介。ネットはザックの中、目の前で飛んだキマダラモドキ、とつきに手で捕まえた。その後はネットを出したが、捕らえたのは全てヒメキマダラヒカゲだった。

その他の話題は、オジさん達は元気だ、明日は東北まで突っ走る、越冬ツマグロが羽化している、今日四番目が生まれた、十九日は新居に引っ越し、初参加の生田耕一ですなどなど。

参加は、中西、井村、松井、細沼、生田耕、竹谷、大脇、吉村、指田の九人。

【表紙デザイン…小幡英典】

會員の動き・しゃげの動き

馬鹿陽気に誘われて

三月二十二日は馬鹿陽気、この日の糖蜜採集がなんと馬鹿当たりで、越冬蛾、春蛾が馬鹿採れ。普通は一晩でせいぜい五十頭前後が関の山なのだが、なんとこの日は、軽く五百頭を越えてしまった。こんな事は初めてと、蛾屋富沢章は、ほくそ笑んでいた。

今年の初飛は三月二十二日

今年の一歩ギフはこの手でと手ぐすねを引いていたが、何と素人にさらわれてしまった。桜の開花予想は四月六日で、発生は三月末と考えていた人は多く、泡を食って二十四日の土曜に押しかけた。

辰口町でもギフチョウ観察

松任の牧原氏、あんまり温かいので、辰口辺りへギフ

チョウ調査。三月二十二日から日参し、二十四日にようやく十♂を観察。

昼休みはギフチョウを眺めて

いらいらする毎日、せめて昼休みくらいギフチョウを眺めてホッとしたい。北陸はギフの大産地、どんな街中でも二十分走ればギフが飛んでいる。日溜まりの舞い戯れを見ていると、心はいつしかりフレッシユ。

白山タイプは減っているのか

福井県南条のギフチョウ白山タイプ、最近ほとんど採れないと聞いている。もともと少ないタイプ、選択的に十〜十五年と続けられ、出現比率はグッと小さくなるのではないのだろうか。もちろん並はリリースしての話。

ゲンゴロウすくい復活

ポケベルにつながれた灰色のインタン生活で、すっかり色白になってしまった西原氏、今年からは東京大学に籍を置き、再び池沼すくいをやる事になった。テーマは石川県産のシャープだが、すくっているといろんなものがかかるので、調査に期待したい。住所、電話等の連絡先は、これまでと同じで、日月火と金沢に住む予定とか。

連休期間のヒダギフ街道

白川、平、上平等々、連休期間中は相変わらず「ギフ」狙いで、賑わった。金沢から近いこともあって、毎日のように当会会員の姿も見られ、ギフにとっては受難の日々になってしまった。

ギフチョウ求めて東へ西へ

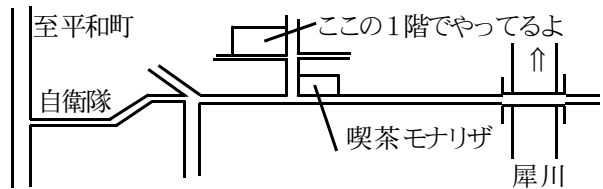
連休中はお天気にも恵まれ、元気印のおじさん達は、ギフチョウを求めて奔走した。中でも二人のS氏は、今

翔 150号

Tobu 2001年6月1日発行
百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>
金沢市大場町東871-15 松井方
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (150号)

日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子：

2000年に輪島市およびその周辺で採集したゼフィルス	… 1
松井正人：石川県産ムラサキシジミの飼育記録	… 2
三上秀彦：富山県福光町におけるヒサマツミドリシジミの記録	… 3
松井正人：宝達山周辺でウラクロシジミを採卵	… 3
大脇 淳：岐阜県白川村三方崩山のキタノキとスズクロチャバネセリ	… 4
久慈一英：ロッキーマウンテン探集旅行2000 Part 1	… 5
編集部：会員の動き・しゃばの動き	…12